

史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）の保存対策について

1. 千足古墳の概要

名 称：造山古墳 第一・二・三・四・五・六古墳（千足古墳は第五古墳）

所 在 地：岡山県岡山市

管理団体：岡山市

指 定：史跡指定（大正10年3月3日）

概 要：造山古墳は5世紀前半に築造された巨大な前方後円墳である。墳丘規模は360m、陵墓（仁徳陵・応神陵・履中陵）を除いては最大である。

第五古墳が千足古墳である。横穴式石室をもつ5世紀中頃の古墳であり、石障(せきしょう)（玄室奥の埋葬空間を区切る石、砂岩製）に直弧文の装飾があることで有名である。

2. 調査経緯

○岡山大学新納(にいろ)教授による調査（平成20～22年度）の一環として、平成21年10月に第五古墳（千足古墳）の石障の線刻文様の三次元測量を実施するため、水没した石室内の水を抜いた際、直弧文のある石材（石障）等に剥離が確認された。

○き損発覚後、岡山市教育委員会において、その原因究明及び今後の対策のための調査に取りかかり、現在、有識者による史跡造山古墳（第五古墳）保存整備委員会を組織し、保存対策について検討を行っている。

○平成２３年３月１１日の史跡造山古墳（第五古墳）保存整備委員会において、以下の調査結果及び方針等が出された。

- ・石室内の直弧文の文様が刻まれている石障の劣化が極めて深刻である。
- ・劣化原因究明に係る発掘調査や様々な科学分析の結果、石障を石室内で保存することが極めて難しいことが明らかになった。劣化の進行状況から判断して石障を石室の外へ搬出して保存措置を講じることが望ましい。
- ・石障を取り外す方法は今後詳細に検討し、最善の方法を講じるとともに、現場作業での実際を十分考慮し、不測の事態にも対応できる内容にする。
- ・石障の劣化状態が深刻であり、しかもその劣化が直弧文全体に及ぶのに猶予がない可能性が高いことから、平成２３年度中に石障を取り外して搬出する作業を実施したい。そのために、平成２３年８月ころにはその方法を確定したい。
- ・史跡の保存という点において、直弧文のある石障が石室に存在することは極めて重要な意味をもっている。そのため、直弧文のある石障が安定した状態になった後、石室が石障を戻すに適した博物館と同等の環境を確立することができたか、もしくは現況の石室の環境でも石障が維持できる保存処置ができれば、石室に戻すという方針をもって石障の保存処置を手がける必要がある。